

- 日時：令和8年3月27日（金）14:00～16:00
- 場所：藤沢市役所 会議室
- 参加者：31名（小3～中1年生）
- 実施者：内閣府 笠井康子上席科学技術政策フェロー

■応募の背景（辻堂青少年会館様より）：

子供達の「こんな未来があったらいいな」という自由な発想を引き出し、科学技術の面白さや可能性を実感してほしいという思いから応募しました。最新の触覚技術や遠隔コミュニケーションロボットを体験し、参加者同士で感想やアイデアを共有することで、未来社会を自分自身の事として考えるきっかけにしてほしいと考えています。

■概要：

＜笠井上席フェローによる科学技術の説明と体験デモ＞

笠井上席フェローが、「科学技術とは何か、イノベーションとは何か」について、子供達にもわかりやすく解説しました。まず、イノベーションによって、離れた場所にいる相手へ音や声を伝える方法がどのように変化してきたのかを、参加者全員で学びました。

その後、「音や声だけでなく、自分が触れた感覚や体験を他者に伝えるにはどうすればいいのか」という問いが投げかけられ、実際にその方法を体験しました。今回は、目標1の南澤プロジェクトよりお借りした、①自分が触れた感覚を友達に伝えることができる“TECHTILE tool”、②遠く離れた人と触覚を共有できる“FEELTECH”、③その場に参加できない友達を遠隔から簡単に「来てもらう」ことができる遠隔操作ロボット“OriHime”の3つのツールを使用しました。

3つのツールを順番に体験した子供達は、自分が持つ空のコップを通してビー玉の感覚が伝わることなどに驚き、大きな歓声を上げていました。

体験後、「一番面白かったもの」を聞くと、回答はほぼ3等分に分かれ、子供達がそれぞれ異なる魅力を感じていたことがわかりました。

＜ワークショップ＞

自分が未来にやってみたいことをポストイットに書き出し、「リアルに体験したいこと」と「バーチャルでいいこと」に分類してもらいました。最初はリアルで体験したいことばかりでしたが、誰のために何が必要かという視点で考えることで新しい発想が生まれ、グループ発表では、「ホンモノ体験として自分の中に残したいからリアル」「コスパが良いのでバーチャル」など、様々な意見が出され、参加者一人一人が自分自身の事として、未来社会を考える貴重な体験となりました。

■交流会後の感想（辻堂青少年会館様より）：

参加した子供達の目はキラキラと輝いており、子供達に、科学は「難しいもの」ではなく「自分のアイデアで未来を変えられるもの」だと感じさせることができ、「失敗を恐れず、挑戦することの大切さ」「ワクワクする未来を描く力と、社会に関わる意識」を育むことができました。

＜目標1 南澤プロジェクトマネージャーの研究開発プロジェクト＞「身体的共創を生み出すサイバネティック・アバター技術と社会基盤の開発」

https://www.jst.go.jp/moonshot/program/goal1/13_minamizawa.html



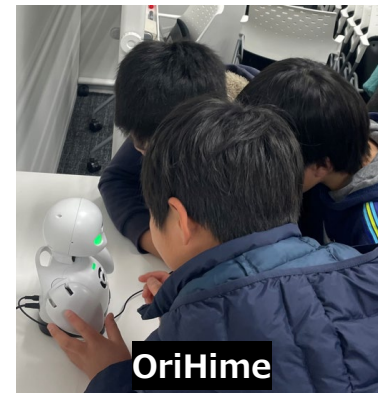
集合写真



科学技術とは？



グループワーク



OriHime



成果発表

